

令和5年度 自己評価・学校関係者評価 報告書

岐阜県立岐阜城北高等学校

学校番号

8

I 自己評価

1 学校教育目標	確かな学力、豊かな人間性、健やかな心身を育み、一人一人の個性を伸ばし、社会の変化に柔軟に対応し、社会に貢献できる人材を育成します。		
2 スクール・ポリシー	『育てたい生徒像』 グラデュエーション・ポリシー (GP) ・主体的に多様な人と協働して学び、生きて働く知識・技能を身に付け、課題を発見し解決に取り組む生徒 ・心身の錬磨を図り、個性を尊重し、奉仕の精神を養い、自らの役割と責任を果たせる生徒 ・社会の変化に柔軟に対応し、地域や社会の課題に取り組み、地域社会の発展に貢献できる生徒	『生徒をどう育てるか』 カリキュラム・ポリシー (CP) ・生徒一人一人がキャリアデザインを具体的に描き、自己実現が図れるよう、各学科の特色ある教育活動を推進し、専門性を深化させるとともに、キャリア教育を推進 ・「主体的・対話的で深い学び」を推進し、知識・技能を習得させ、他者と協働しながら課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力等や主体的に学習に取り組む態度を育成 ・基本的生活習慣の確立と自他の生命を尊重する態度を育て、生徒一人一人の個性を伸ばし、深い学びを実現するための社会に開かれた教育課程の編成と個に応じた指導の実施	『どんな生徒を待っているか』 アドミッション・ポリシー (AP) ・基本的生活習慣が身に付いており、向学心を持ち、学校行事、生徒会活動、部活動などの活動に積極的に参加し、多様な人と協働して学ぶことができる生徒 ・進路実現に向かって継続的に努力し、多様な学びや資格・検定、コンクールに主体的に取り組む、自らの可能性を拓く意欲のある生徒 ・部活動でスポーツ活動または文化活動で優れた能力を有し、入学後も継続して活動する意欲のある生徒

3 評価する領域・分野	◇総合学科		
4 現状の分析	<p>○保護者の学校評価アンケート結果より、教職員に関する項目のうち「教員は、授業をとおして学力が向上するように指導している」81.9%、学校独自項目のうち「コンクールや検定への積極的な取り組みがなされ知識や技術の定着に役立っている」で80.4%など80%を超える高評価が得られた。</p> <p>○生徒の学校評価アンケート結果より、「ICT（タブレット機器など）を活用した学習活動や一部で少人数授業などがあり、それが学習の理解につながっている」83.2%であり、昨年度より約6%増加している。引き続きICT機器を積極的に活用した授業を行うよう心掛けていきたい。</p> <p>▲生徒の学校評価アンケート結果より、「一人一人のよさや可能性を伸ばすことに努めている」80%を割っており、昨年よりも約3%減少している。生徒一人一人に対する丁寧な指導を心がけたい。</p>		
5 学校の抱える課題	◇1年次の11月に、2年次で選択する系列を決めているが、安易に系列を選択した結果、系列の専門学習でつまずく生徒もおり、しっかり自分の進路希望などを見据えた系列選択ができるよう担当者の助言や指導が必要である。		
6 今年度の具体的かつ明確な重点目標	<ul style="list-style-type: none"> ・来年度以降の総合探究の時間に向けての実施計画を立てる。 ・生徒募集等を念頭におき、中学生・保護者・地域住民に向けて学科のPR活動を積極的に行う。 ・地域に対する愛着を育むことができるような取り組みを発展・充実させる。 		
7 目標の達成に必要な具体的な取組	8 達成度の判断・判定基準あるいは指標		
(1) 総合学科を担当する教員の連携を密にし、各教科の枠を超えた協力体制を確立できるようにする。 (2) 各種の学校行事で積極的にPR活動をする。	(1) 推進会議の実施、教材の選定 (2) 参加人数や来場者人数、事後アンケート		
9 取組状況・実践内容等	10 評価視点	11 評価	
<ul style="list-style-type: none"> ・総合探究の時間の研究 総合探究推進会議の開催 ・中学生を対象とした夏の高校見学会、秋の体験入学等の実施 ・城北Co-Market、わいわい広場の開催、岩野田小学校との交流会、山県市の紹介動画作成等 	①総合探究の年間計画作成や使用教材の選定 ②事後アンケート結果 ③来場者数、アンケート結果（感想含む）	A (B) C D A (B) C D A (B) C D	
12 成果・課題	○地域との連携事業（岩野小学校との交流・山県市紹介動画作り・インターンシップ・高大連携）など、地域を知る取り組みを深めることが実現できた。 ○様々な場面（各教科での授業・学校行事・他の事業所との交流会など）で、生徒がプレゼンテーションする機会が増え、生徒の表現力、コミュニケーション力の向上等に繋げることができた。 ▲学校を欠席する生徒が増加傾向にあり、学習意欲の低下や身だしなみや挨拶といった基本的生活習慣の乱れにもつながっている。生徒が自主的・主体的に学ぶ意欲や態度の育成につなげるにはどのように指導していくべきか検討していきたい。		
	総合評価 A (B) C D		

13 来年度に向けての改善方策案

- ・ 3 学年とも新教育課程となる。生徒の実態も年々変化していることから、新科目の授業内容や指導方法、学科行事等を再考し、魅力ある学科作りを推進するため「どのような生徒を育てたいのか」を担当者間で再確認し、共通理解のもとで運営していきたい。
- ・ 豊かな学びの取り組み実践に向けた大学や専門学校との連携授業の計画を立案し、教員間で共有できるようにしていきたい。
- ・ 「総合探究の時間」を見直し、生徒一人一人が適切な進路選択ができるように意識した授業展開ができるように計画していきたい。

II 学校関係者評価

実施年月日：令和6年2月5日

【意見・要望・評価等】

- ・ 卒業発表会では、総合学科・生活デザイン科の両学科それぞれの系列・コースの集大成が発表され、とても素晴らしかった。
- ・ SDGs への取組や自ら課題を見つけて解決していく力が養われるような取組が多かった。3年間で培った力はこれから何事を行うときにも役に立つものである。